

東京の教育

復刊第五号

東京都教師会発行

(事務局) 横浜市中区茅ヶ崎南四ノ十四ノ一ノ三〇

日本教師会

第五十七回教育研究大会報告

— 記念講演を中心にして —

佐藤 健二

標記大会が、八月五日(土) 六日(日)の二日間、大阪教師会主管により、上本町のホテルアウィーナ大阪を会場として開催された。参加者は約四十名、研究主題は「道徳科の授業のあり方と課題」。周知のやうに、道徳は来年度から小学校で教科として教へられるやうになる。また再来年度からは中学でも始まる。そのことを見据え、長年冬季研修会で道徳教育を主題に活動が続けてこられた大阪教師会ならではの主題設定である。



慶野会長の挨拶(八月五日)

開会式の後、皇學館大学准教授渡邊毅氏による記念講演「アメリカの道徳教育の動向—キヤ

ラクター・エデュケーションとPBIS—」が行われた。渡邊氏はウイスコンシン州のブラウン・ディア(Brown Deer)といふ中高一貫校でどのやうな道徳教育が行はれてゐるかを視察して来られ、そこでの取り組みを多くのスライドを使つて紹介された。私の頭の中では、アメリカといふと個性尊重・自由教育の牙城であり、道徳教育といふ言葉と何かそぐはないやうな思ひがしたのだが、お話を伺ふうちに、私は自分の認識がいかに時代遅れのものであつたかに気づかされ、むしろ今ではアメリカの方が(果たして全国的取り組みかどうかは定かではないが)、我が国よりよほどしっかりと道徳教育をしてゐるではないかといふ驚きが生じてきた。

キヤラクター・エデュケーションといふのは、「道徳的価値(徳目)を教へ、よい習慣を形成し、それを行為で示す」といふところに特徴がある。徳目注入型の教育法である。なぜこのやうな取り組みが為されるに至つたかといふと、それは一九六〇年代から一九八〇年代に行はれた道徳教育の失敗に起因してゐるといふ。その間、道徳教育は個人的な価値判断によるものであり、価値を外から注入するのではなく、内面の価値に気づかせ、明確化することを支援するといふものと考へら

れてゐた。現在我が国の教師の多くは、この子供達の自立を支援するといふ考へ方に立つてゐるのではないだらうか。しかし、アメリカでは、この方法で道徳教育を行つた結果、その間に問題行動が多発し、ウィリアム・キムパトリックといふ著名な教育学者は「米国人は道徳教育の実験に失敗した」と語つたさうである。

そこで取り入れられたのがキヤラクター・エデュケーションである。そこでは核心的価値(徳目)を設定し、それをしっかりと子供達の内面に刻みつけ、実践を目指すといふものである。その徳目とは「尊敬」「責任感」「忍耐強さ」「奉仕」「正直」「勇気」といったものである。この方法を取り入れてから、ブラウン・ディア校では劇的な変化が見られたといふ。スライドには、二〇〇八年度には一万一千件ほどあつた問題行動が翌二〇〇九年度には三千件にまで減少、直近の二〇一五年度の統計によると約千百件といふグラフが映し出され、その変化に驚かされた。また校内の壁の随所に核心的価値(徳目)が掲示されてゐる。Be Respect, Be Safe, Be Responsible など。驚いたのは、その徳目の中に日本語が含まれてゐたことだ。Kaizen(改善)、Gambatte(頑張つて)など。しかもこの二つは徳目の上位二つであり、その下にPurpose(目標)やRespect(尊敬)といった英語の徳目が並んでゐる。しかも、「改善」と大きく漢字で書かれたポスターの背景には、何と二宮金次

渡邊毅氏（八月五日）



郎のおなじみの姿が大きく描かれてゐるではないか。

一九八〇年代、時の大統領レーガンは、アメリカの教育の失敗を何とかしなければといふことで、日本に大型の教育視察団を送り込んだ。

その結果一九九〇年代に始まったのがゼロ・トレランス方式といふ教育実践であつた。つまり罰則違反にはトレランス（寛大）を以て対するのではなく、ゼロ・トレランス（言ひ訳無用）で厳しく対処するといふ方法である。キャラクター・エデュケーションはその延長線上に出てきた教育実践法であるが、アメリカが日本に学び厳しい生徒指導に舵を切り替へたころ、我が国は逆に文部省（現文科省）と日教組の野合的教育政策である所謂「ゆとり教育」で、過剰な個性尊重路線にのめり込んで行つた。遅刻するのめり込んだ個性、好き嫌いもあなたの個性。無理して直す必要はありません。それが今日の為体である。何といふ皮肉か。封建道徳のシンボルとして我が国で棄て去つた筈の二宮金次郎は、アメリカで拾はれ、新たな道徳教育のシンボルとして蘇つてゐたのだ。このことは何を意味してゐるのであらうか。

我が国の道徳教育は、敗戦と共にGHQにより教育勅語及び修身が廃止され、日本人としての魂が奪はれてしまつた。戦後七十二年、アメリカでは我が国が棄てた二宮金次郎を蘇らせ道徳教育を行つてゐる。また教育学者の小池松次氏が修身の教科書をもとにして作つた『修身・日本と世界』といふ本は、アメリカで『The Books of Virtues』として道徳のテキストとしてベストセラーになつただけではなく、欧州でも広く読まれてゐるといふことである。

アメリカの学校の壁に大きく描かれた二宮金次郎は異国の地で何を語つてゐるのであらうか。そろそろ日本の学校に帰らしてくれともも言つてゐるのではないか。「人としての正しい生き方」（道徳）といふのは、古今東西さう変はるものではない。教育勅語や修身には世界に通用する徳目が記されてゐるといふことに今気づいてゐないのは、日本人だけなのかもしれない。

（会員）

教育研究大会報告

—実践発表より—

佐藤健二

今回の教研大会では、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の部それぞれに実践発表がなされた。その中から印象に残つたことをいくつか報告したい。

幼稚園の部では、PKIDS教育学園の山西寿幸先生により「異年齢クラスにおける能動的学習法」といふ発表があつた。

PKIDSは、年齢別クラスの枠を取り払ひ、「幼・保・小・中一体化の総合教育」を目指して作られた総合教育施設である。発表標題の「異年齢クラス」とは、それに伴つて組織されたもので、異年齢の子供たちに自主的にその相手を見つけてグループを作らせ、そこでは年齢の上の子が年下の相手の世話をするといふ形で学習がなされる。

二十九年度の『紀要』の「デイリープログラム」を見ると、九時 朝礼、朝の歌、体操、瞑想、孝経音読とある。「孝経音読」といふのは、江戸時代初期の儒学者で、日本陽明学の祖であり、後に近江聖人と言はれた中江藤樹の書いた「孝経」についての訓へを、みなで音読するといふものだ。三歳児も含む構成からするとはたしてみな揃つて音読できるか危ぶまれるのであるが、その方法も子供同士で相談して、当番の子がまづ読んで、その後全員で読むといふリード読みを選んだといふ。最初は小さな声で読んでゐた子も、一ヶ月も経つと声も大きくなり、最初の頃のたどたどしさもなくなりしつかり読めるやうになつたといふ。

中江藤樹は、「孝」こそが人の命の根本であり、親の子への愛情は当然の大前提とし、その親の思ひを受け止めて親の自分に向けられた愛情を知る、この親から子へ、子から親

へといふ愛情の循環その自覚反省こそが眞の生命であると説くのであるが、この学園の子供たちは、「孝経音読」を通して、理屈ではなく、この生命の根本に触れることになるのではない。素晴らしい実践だと思つた。

プログラムはその後、十時には、暦、数字、ひらがな、発声活動、絵本の読み聞かせからの表現展開活動、異年齢別能動的数と言葉ワーク学習活動などと色々あるのであるが、具体的にどのやうな学習がなされてゐるかといふことについては、時間の制約もあり、説明はなかつた。プログラムは十一時、十二時と一時間刻みに用意されてゐて、十四時の「ふりかえり活動」で終はる。このプログラムの準備に当たる先生方の御苦労はさぞやと察せられた。

小学校の部は、大阪市立南恩加島小学校の丸岡慎弥先生による「日々の授業で子供の心を鍛える」といふ発表であつた。

丸岡先生は「まだまだ十分な道徳教育活動は行われていない」といふ認識に立つて、「週に一度の道徳の授業を充実させ」、「教育活動全体としての道徳教育を示す」といふことを目標として本発表を考へられたといふことであつた。(括弧内は『紀要』からの引用。以下同じ)。そこで取り上げたのが、横山駿也氏が提唱されたといふ「道徳読み」の実践である。では「道徳読み」とはどのやうなものであるか。

「道徳の時間では、道徳の頭で考えてもら

います。道徳の頭で考えるとどのようなことでしょうか。例えば、次のような問題文があるとしみましょう。

次郎さんは花を七本持っていました。花子さんは、次郎さんから三本もらいました。

このお話の続きが、次郎さんの花は何本残りますかと続くと、みんなは『算数の頭』で考へることになります。花子さんはどんな気持ちだつたのでしょうかと続くと、『国語の頭』で考えますね。では、次のやうにお話が續くとどうでしょうか。花子さんは本当にもらつてよかつたのでしょうか。このやうに話が續くと、みなさんは『花子さんの行動』に意識が向いたはずで、これが『道徳の頭で考える』といふことです。

このやうな例により、子供たちは「道徳読み」といふものがどのやうなものであるかを知るやうになるといふ。

その後、実際に先生が教材文を範読しながら、子供たちに、気になる箇所やいいなと思つた箇所に傍線を引かせ、傍線を引いた箇所からどのやうな「価値」を学んだかをノートに書かせる。その後みんなで意見を發表して、「道徳的価値」に気づかせていく。この積み重ねにより、「みるみるうちに自分から道徳的価値を見出すことができるようになる」。

この「道徳読み」の実践で勝れてゐるのは、「自分から道徳的価値を見出す」といふことである。道徳は単に知識として持つてゐるだけでは意味がない。いかに実践に結びつける

かである。その気づきは、内発的なものである必要があるが、気づきを気づきとして意識するには言語化が必要である。一人ではその思ひがあつても、どう表現してよいかが解らないことが多い。大勢で意見交換する事により、自分が漠然と思つてゐたことが、それに相応しい言葉を得て、確かに道徳的価値なのだといふことを知る。それが内発的な気づきである。クラス全体で「道徳読み」をする意義は、自己に内在してゐるにもかかはらず今まで気づかずにきたこの価値の存在に、他者の目を重ねることにより、言葉としてはつきり気づかされるといふことではなからうか。道徳といふとかく上からの押しつけのやうに思はれがちであるが、実はさういふ心の動きは、年齢とともに自然と備はつてくるものである。ただそれをはつきり道徳的価値として自覚する、つまり言語化する契機が得られなかつただけなのである。だから親や教師から何か注意されても、そんなのわかつてるよと反発したくなる。わかつていたけどうまく言語化できなかったその思ひを、先に強圧的に言はれたのが不愉快なのである。

先生の範読を聞きながら傍線を引く作業は、自己の内面との向かい合ひである。道具(モノ)に囲まれて生活する現代の子供たちは、道具といふ外在的なモノに意識が奪はれ、自己の内面と向き合ふ経験に乏しい。またその内面の動きを表現する言葉にも乏しい。しかし、普通の家庭環境であれば、道徳的価値



実践発表(八月五日)

実践発表が続いたが、紙幅の関係で割愛する。全体として、若い先生方が、道徳の授業に力強くいきいきと取り組まれてゐる姿に、新鮮な驚きと感動を覚えた。

平成二十九年年度日本教師会総会報告

八月六日(日)九時から、前日の教育研究大会に引き続きホテルアウイナで、総会が開催されました。総会は昨年からの、従来の定期大会に替はるものとして、日本教師会会員なら誰でも参加でき、(新会則により)最高議決機関として位置づけられることとなりました。

議案は、平成二十八年度事業・会計報告、会則改正、役員改選、平成二十九年度事業計画・予算案など。中でも会則は、昭和五十三年以降改正されてをらず、今回実情に合はせて大幅に変更することとし、その為審議にも

観は年齢とともに自然と育まれてくる筈だ。ただその自覚が難しい。「道徳読み」はその気づきを、クラスの話し合いを通して得られる貴重な実践ではないかと思つた。

中学校、高等学校の部にも、優れた実践発表が続いたが、紙幅の関係で割愛する。

多くの時間を費やしました。その結果、事務局案に修正を加へ、新会則が今年の八月六日(総会開催日)より施行といふことで承認されました。新会則は、事務局で修正部分を訂正し、会員のもとに直接郵送されることとなります。

また役員改選では、十数年にわたつて会長として本会の運営・発展に尽力してこられた慶野会長が退任され、若手の会長適任者がゐないといふことで、前会長の若井勲夫先生(京都産業大学名誉教授)に、ご高齢ではありますが、次の会長までの中継ぎといふことで再度引き受けて頂くこととなりました。

なお、来年度の大会は、東京都教師会が主管することとなりました。会期は、今後八月第一土日に開催するといふことになりましたので、来年は八月四日(土)五日(日)に開催します。会員の皆様には、今からご予定の上、当日近くなりましたら、ご協力の程、宜しくお願いいたします。(事務局)

□ 短信短評 □

いささか「旧聞」に属するが、毎年正月の初競りで高値に鮪を競り落とすことで知られてゐる、築地などで回転寿司店を経営する会社の社長が、ソマリア沖アデン湾の海賊を壊滅させたとして評判になったことがある。

確かに同海域では海賊が横行し、各国の民間船が襲撃されるなど甚大な被害が出てゐた。国際社会はこれに対し、我が国の海上自

衛隊や各国軍の艦艇を出してこれを警備した。現在も自衛隊からは護衛艦「てるづき」と、交替した「あまざり」が出動して任務にあたつてゐる。

そんな状況の中でその社長がソマリア沿岸に行つて現地で鮪の加工技術を教へたので、海賊が減つてきたのだといふのがその噂の内容なのである。更には、だから武力に頼らなくても話し合ひで解決は可能だなどと主張する者までが現れたのである。

しかし、順序は逆で、各国の警備が厳しくなつた為に身動きが取れなくなつて海賊が激減した、そんなところへ民間の寿司会社が近づくことが出来たのである。ならず者相手では始めから平和裡の解決などいふうまい話にはならない。

この社長は実は航空自衛隊出身であるから、この人物自身が一番そのことを知つてゐるはずだ。

この話はネットで話題になり、結局は真相が明らかになつて、現在は沈静化してゐる。(ふ)

◎「東京の教育」への会員の皆様のご投稿をお待ちしています。字数は三千字程度以内でお願いします。

事務局アドレス(佐藤)

komasato@junio.ocn.ne.jp